

令和 8（2026）年度

大学院 保健科学研究科

保健科学専攻（修士課程）

学生募集要項



熊本保健科学大学
Kumamoto Health Science University

目 次

保健科学研究科の入学受入の方針（アドミッションポリシー）	2
1. 募集人員	4
2. 募集専攻領域	4
3. 取得できる学位、修業年限	4
4. 出願資格	4
5. 出願資格審査	5
6. 出願希望者の事前相談	6
7. 出願期間	6
8. 出願手続	7
9. 入学検定料	7
10. 選抜方法	8
11. 合格発表	9
12. 入学手続	9
13. 長期履修制度	10
14. 学納金	10
15. 奨学制度等	11
16. 受験に際しての注意事項	12
17. 健康上配慮が必要な方の出願について	13
18. 個人情報の取扱いについて	13
19. 試験会場案内図	14
＜別紙＞ 保健科学研究科保健科学専攻概要	

本要項に記載されている入学試験日程や選抜方法等から変更があった場合は、
本学ホームページにてお知らせいたします。
なお、状況によっては、複数回変更となる場合もあります。

入学者受入方針（アドミッションポリシー）

1. 基本理念

保健科学分野における先端領域を理解し、豊かな人間性を備えた資質の高いメディカルスタッフとして、他の専門職と緊密に連携・協力できる高度専門職及び医療現場で指導的役割を果たすことができる人材、並びに専門領域で技術の改良やその技術を臨床へ応用できる人材を養成し、活力ある長寿社会の実現に向け貢献する。

2. 研究科の目的

研究科は、保健科学分野、特に生命科学領域の急進的な発展に対応できる高度専門職あるいは研究者の育成を目的とする。これら人材が保健医療等に携わる専門職として活躍することにより、高齢社会におけるヘルスプロモーション、予防医学、地域医療あるいは診断治療等の場を通して、社会に貢献する。

3. 社会に求められる高度専門職像

修了認定・学位授与方針で述べている人材は以下のとおりです。

■臨床検査領域

- (1) 臨床検査領域の現状と課題を理解し、次世代に必要とされる技術の改良や開発、その臨床応用などについて研究することができる
- (2) 豊かな人間性を備え、他の保健医療福祉従事者と連携・協力し、チーム医療の推進に寄与することができる
- (3) 臨床検査領域の医療現場において指導的役割を果たすことができる
- (4) 臨床検査データから病態を推測できる高度の能力を培い、病気の予防、診断と治療に寄与することができる
- (5) 大学院博士後期課程を目指す基礎ができている

■看護領域

- (1) 看護領域の現状と課題を理解し、次世代に必要とされる技術の改良や開発、その実践現場での応用などについて研究することができる
- (2) 豊かな人間性を備え、他の保健医療福祉従事者と連携・協力し、チーム医療の推進に寄与することができる
- (3) 看護領域の多様な現場において、指導的役割を果たすことができる
- (4) 高度な専門的知識・技能に裏打ちされた看護技術を基に、人びとの健康の充実・推進に寄与することができる
- (5) 大学院博士後期課程を目指す基礎ができている

■リハビリテーション領域

- (1) リハビリテーション領域の現状と課題を理解し、次世代に必要とされる技術の改良や開発、その臨床応用などについて研究することができる

- (2) 豊かな人間性を備え、他の保健医療福祉従事者と連携・協力し、チーム医療の推進に寄与することができる
- (3) リハビリテーション領域の医療現場において指導的役割を果たすことができる
- (4) 高度な専門的知識・技能に裏打ちされたリハビリテーション技術を基に、リハビリテーションの充実・推進に寄与することができる
- (5) 大学院博士後期課程を目指す基礎ができている

3. 求める学生像

上記のような人材に成長するために必要な資質を、求める学生像として示すと以下のようになります。

- (1) 保健・医療の分野において高度専門職あるいは研究者を志す動機や意欲を有する者
- (2) 大学院で学ぶために必要な基礎知識を習得し、語学力、情報収集・処理能力を備えている者
- (3) 倫理観と豊かな人間性・感性を備え、目的に向かって進む力を有する者
- (4) 他職種との連携やチームワークに必要な協調性を有し、グローバルな視点も備え、臨床検査、看護及びリハビリテーションの領域等において次世代のリーダーを志す動機や意欲を有する者

4. 入学者選抜の方針と方法

○基本方針

- ・推薦選抜、一般選抜、社会人選抜（Ⅰ期・Ⅱ期）の3つの入試区分を設け、多様な学生を評価する体制とする。
- ・志望理由・研究志望書、推薦書、個人面接、小論文等により、高度専門職を目指す学生としての動機、意欲、適性（思いやり、コミュニケーション力、協調性、柔軟性等）を総合的に評価する。
- ・入学後、研究を行う上で英語が必要となるため、社会人選抜以外の推薦選抜、一般選抜の入試区分においては、英語を必須科目とする。

○入試区分ごとの特色

・推薦選抜

出身大学及び専門学校の指導教員の推薦を得た志願者を対象とする。筆記試験により英語の学力を測り、志望理由・研究志望書、推薦書、個人面接、小論文により、動機、意欲態度などを総合的に評価する。

・一般選抜

筆記試験により英語の学力を測り、志望理由・研究志望書、個人面接、小論文により、動機、意欲、態度などを総合的に評価する。

・社会人選抜

出願時に社会人として1年以上の実務経験を有する者で、入学時に24歳に達し、以下のいずれかに該当するものを対象として、年2回実施する。

1. 臨床検査技師・看護師・保健師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士等の免許を有する者
 2. 保健医療に関連する実務に従事している者
- 小論文と個人面接により、動機、意欲、態度などを総合的に評価する。

令和 8 年度 募集概要

1. 募集人員

保健科学研究科 保健科学専攻 10 名

2. 募集専攻領域

- (1) 臨床検査領域
- (2) 看護領域
- (3) リハビリテーション領域

3. 取得できる学位、修業年限

修士（保健学） 2 年

4. 出願資格

【推薦選抜】**専願**

次の（1）または（2）に該当する者

- (1) 学校教育法第 83 条の大学を令和 7 年 3 月以降に卒業した者及び令和 8 年 3 月までに卒業見込みの者
- (2) 指定された専修学校の専門課程（修業年限が 4 年以上であることその他の文部科学大臣が定めた基準を満たす者に限る）を令和 7 年 3 月以降に修了した者及び令和 8 年 3 月までに修了見込みの者

【社会人選抜】

出願時に社会人として 1 年以上の実務経験を有し、以下の（1）または（2）に該当する者

- (1) 臨床検査技師・看護師・保健師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士等の免許を有する者で、令和 8 年 4 月 1 日時点で 24 歳に達する者
- (2) 【一般選抜】の出願資格（1）～（10）のいずれかに該当し、保健医療に関連する実務に従事する者で、令和 8 年 4 月 1 日時点で 24 歳に達する者

【一般選抜】

次の（1）～（10）のいずれかに該当する者

- (1) 学校教育法第 83 条の大学を卒業した者及び令和 8 年 3 月までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第 104 条第 7 項の規定により学士の学位を授与された者及び令和 8 年 3 月までに授与される見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における 16 年の課程を修了した者及び令和 8 年 3 月までに修了見込みの者

- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した者及び令和 8 年 3 月までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了したとされるものに限る）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び令和 8 年 3 月までに修了見込みの者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る）において、修業年限が 3 年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む）により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び令和 8 年 3 月までに授与される見込みの者
- (7) 指定された専修学校の専門課程（修業年限が 4 年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たす者に限る）を修了した者及び令和 8 年 3 月までに修了見込みの者
- (8) 文部科学大臣が指定した者（昭和 28 年文部省告示第 5 号）
- (9) 学校教育法第 102 条第 2 項の規定により他の大学院に入学した者であって、本学大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者
- (10) その他、大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学大学院において認められた者で 22 歳に達したもの及び令和 8 年 4 月 1 日までに達する者

5. 出願資格審査

- (1) 次の①～③のいずれかの区分に該当する者は、出願に先立ち、資格審査等を行いますので、所定の期日までに、次の申請書類を入試・広報課へ提出してください。郵送の場合は、封筒の表に「大学院出願資格審査申請書類在中」と朱書きのうえ、必ず「簡易書留・速達」郵便としてください。
 - ①【一般選抜】の出願資格（9）または（10）で出願する者
 - ②【社会人選抜】の出願資格（1）で出願する者のうち、臨床検査技師、看護師、保健師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士以外の資格により出願する者
 - ③【社会人選抜】の出願資格（2）で出願する者

- (2) 提出期間（郵送による場合は期間内必着）

入試区分	提出期間
推薦選抜 社会人選抜（Ⅰ期）	令和 7 年 9 月 29 日（月）～ 10 月 8 日（水）
一般選抜 社会人選抜（Ⅱ期）	令和 8 年 1 月 19 日（月）～ 1 月 28 日（水）

【申請書類の提出先】〒861-5598 熊本市北区和泉町 325 熊本保健科学大学 入試・広報課

- (3) 申請書類 ※印は本学所定の様式です。ホームページからダウンロードしてください。

出願資格審査区分 申請書類 ※は本学所定様式		①	②	③
		【一般選抜】 (9) または (10)	【社会人選抜】 (1) のうち指定された 資格以外の有資格者	【社会人選抜】 (2)
出願資格審査申請書	※	○	○	○
最終学歴証明書		○	○	○
成績証明書 (申請 1 ヶ月以内に作成し、厳封したもの)		○	○	○
保健医療系免許証の写し			○	
実務内容証明書	※			○

- (4) 資格審査

資格審査は提出された申請書類により在学年数、修得単位数等を基に行います。

- (5) 資格審査の結果

審査の結果は、それぞれの出願期間前までに申請書宛に速達郵便により通知します。出願資格審査に合格した者は、直ちに「8. 出願手続」に記載された出願に要する書類等を取りまとめ、出願期間内に提出してください。

6. 出願希望者の事前相談

出願を希望する者は、あらかじめ指導を希望する教員に連絡し、今後の研究及び教育について相談してください（教員連絡先は保健科学研究科保健科学専攻概要に記載）。

7. 出願期間

入試区分	出願期間
推薦選抜 社会人選抜（Ⅰ期）	令和 7 年 10 月 14 日（火）～ 10 月 24 日（金）
一般選抜 社会人選抜（Ⅱ期）	令和 8 年 2 月 2 日（月）～ 2 月 10 日（火）

※欠員があるときは、令和 8 年 2 月 11 日（水）以降に出願を受理する場合がありますので入試・広報課までお問い合わせください。ただし「4. 出願資格」のいずれかを満たしていることが必須です。

※出願書類は、市販の封筒に入れ、「大学院 出願書類在中」と朱書きのうえ、「簡易書留・速達」郵便で提出（期間内必着）してください。ただし、出願期間最終日のみ、本学窓口で午後 5 時まで受け付けます。

【出願書類の提出先】〒861-5598 熊本市北区和泉町 325 熊本保健科学大学 入試・広報課

8. 出願手続

出願にあたっては、事前に指導を希望する教員に入学後の教育・研究について相談の上、以下の書類を一括して提出してください。

※印は本学所定の様式です。ホームページからダウンロードしてください。

出願書類 ※は本学所定様式	入試区分	【推薦選抜】	【社会人選抜】		【一般選抜】
			出願資格(1)	出願資格(2)	
入学志願票	※	○	○	○	○
受験票、写真票	※	○	○	○	○
成績証明書 ^{*1} (申請1ヶ月以内に作成し、 厳封したもの)		○	○		○
卒業(見込み)証明書 ^{*1}		○	○	○	○
志望理由・研究志望書	※	○	○	○	○
推薦書	※	○			
受験許可書	※		○	○	
保健医療系免許証の写し ^{*1}			○		
受験票返信用封筒 ^{*2}		○	○	○	○

*1 出願資格審査時に一度ご提出されている場合は、再度ご提出いただく必要はありません。

*2 本人氏名・自宅住所を記載、長形3号120×235mmサイズ、410円分の切手を貼付すること。

・各種証明書の姓と現在の姓が異なる場合は、公的に証明できるもの(戸籍の個人事項証明書等)を提出してください。

9. 入学検定料

入試区分	入学検定料	振込期間
推薦選抜 社会人選抜(I期)	30,000円	令和7年10月14日(火)～10月24日(金)
一般選抜 社会人選抜(II期)		令和8年2月2日(月)～2月10日(火)

(1) 入学検定料は、金融機関等の窓口またはATMで振込んでください。ネットバンキングからもお振込みいただけます。なお、振込手数料は各自の負担となります。

【振込先】 肥後銀行 本店営業部 普通預金 口座番号 2360274

ガク) ギンキョウガクエン

口座名 学校法人 銀杏学園

(2) 入学検定料振込後、振込内容(振込金額、振込人名)が確認できる①～③のいずれかを「写真票」右側の貼付欄に貼付してください。

① 振込依頼書利用の場合：振込依頼書の本人控え(コピー可)

② ATM利用の場合：利用明細書(コピー可。残高は黒く塗り潰してください。)

③ ネットバンキング利用の場合：振込受付書やメールなどを印刷したもの

※操作方法等の詳細は、ご利用のネットバンキングサイトにてご確認ください。

(3) 既納の入学検定料は、原則として返還できませんので、あらかじめご了承ください。

※ 大学の指定する自然災害により被災し、令和8年度入学試験において本学を志願される方に対し、入学検定料の減免制度があります。大学の指定する自然災害が発生した場合は、ホームページにてお知らせいたします。

10. 選抜方法

入学者選抜は、筆記試験及び面接試験の結果、並びに学業成績証明書等を総合的に判定して行います。

【推薦選抜】

試験日（試験会場）	時 間	内 容	科 目	配 点
令和7年11月1日(土) (熊本保健科学大学)	10:00～11:00	筆記試験	小論文	50点
	11:20～11:50		英語 ^{*1}	50点
	12:00～	面接試験	個人面接	段階評価

(1) 試験当日は9時00分～9時40分までに入室すること。

*1 英和辞書持ち込み可

【社会人選抜（I期）】

試験日（試験会場）	時 間	内 容	科 目	配 点
令和7年11月1日(土) (熊本保健科学大学)	10:00～11:00	筆記試験	小論文 ^{*2}	100点
	11:20～	面接試験	個人面接	段階評価

(1) 試験当日は9時00分～9時40分までに入室すること。

*2 外国籍を持つ受験者については、小論文の試験では和英辞書もしくは日本語から母国語訳の辞書のいずれか1冊の持ち込み可とし、解答は日本語もしくは英語とする。

【一般選抜】

試験日（試験会場）	時 間	内 容	科 目	配 点
令和8年2月21日(土) (熊本保健科学大学)	10:00～11:00	筆記試験	小論文	50点
	11:20～11:50		英語 ^{*1}	50点
	12:00～	面接試験	個人面接	段階評価

(1) 試験当日は9時00分～9時40分までに入室すること。

*1 英和辞書持ち込み可

【社会人選抜（Ⅱ期）】

試験日（試験会場）	時 間	内 容	科 目	配 点
令和8年2月21日(土) (熊本保健科学大学)	10:00 ～ 11:00	筆記試験	小論文*2	100 点
	11:20 ～	面接試験	個人面接	段階評価

(1) 試験当日は9時00分～9時40分までに入室すること。

*2 外国籍を持つ受験者については、小論文の試験では和英辞書もしくは日本語から母国語訳の辞書のいずれか1冊の持込み可とし、解答は日本語もしくは英語とする。

<留意事項>

*1 【推薦選抜】及び【一般選抜】において英語の試験で使用する辞書は英和辞書1冊のみとし、和英辞書や電子辞書（辞書機能を持つ携帯電話含む）の使用は認めません。なお、辞書を持参しないことによる不利益について、本学は一切その責任を負いません。

*2 【社会人選抜（Ⅰ期）】及び【社会人選抜（Ⅱ期）】において外国籍を持つ受験者に小論文の試験で使用する辞書は、和英辞書もしくは日本語から母国語訳の辞書いずれか1冊のみとし、電子辞書（辞書機能を持つ携帯電話含む）の使用は認めません。なお、辞書を持参しないことによる不利益については、本学は一切その責任を負いません。

11. 合格発表

入試区分	合格発表日	時 間
推 薦 選 抜 社会人選抜（Ⅰ期）	令和7年11月14日（金）	午前10時
一 般 選 抜 社会人選抜（Ⅱ期）	令和8年2月27日（金）	

受験者本人に合否の結果を郵送します。また、参考までに本学のホームページに合格者の受験番号を掲載します。なお、電話等による合否についての照会には応じられません。

12. 入学手続

入試区分	入学手続期間
推 薦 選 抜 社会人選抜（Ⅰ期）	令和7年11月14日（金）～ 11月28日（金）
一 般 選 抜 社会人選抜（Ⅱ期）	令和8年2月27日（金）～ 3月11日（水）

入学手続の詳細については、合格通知の際に同封する「入学手続のしおり」で確認し、所定の期日までに入学手続を行ってください。なお、所定の期日までに入学手続をしなかった者は、入学を辞退したものとみなします。

13. 長期履修制度

この制度は、学生が職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に授業を履修し、修了することができる制度です。本制度を利用する場合は入学時に申請が必要です。

(1) 対象者

- ① 職業を有している方
- ② 育児・介護等により標準の修業年限で修了することが困難な方

(2) 長期履修期間

延長期間は1年を限度とします。したがって修業年限は3年となります。

(3) 学納金（授業料・実験実習料・施設設備資金他）

標準修業年限（2年間）の学納金を按分した額となります。

(4) 申請方法

- ① 出願時に長期履修を希望する方は、志望理由・研究志望書の3. 長期履修の希望（有・無）の欄の有に○を付けてください。合格された場合、入学手続の書類に長期履修申請書を同封しますので、指定した日までに提出してください。
- ② 合格後または入学手続後に長期履修を希望する方は、入試・広報課までご連絡ください。長期履修申請書を送付しますので、指定した日までに提出してください。

14. 学納金

【一般入学者】

(円)

学納金内訳	1 年次		2 年次		学納金合計
	前期学納金	後期学納金	前期学納金	後期学納金	
入 学 金	200,000	—	—	—	200,000
授 業 料	400,000	400,000	400,000	400,000	1,600,000
実 験 実 習 料	50,000	50,000	50,000	50,000	200,000
施設設備資金	50,000	50,000	50,000	50,000	200,000
合 計	700,000	500,000	500,000	500,000	2,200,000
年 次 合 計	1,200,000		1,000,000		

【長期履修者】

(円)

学納金内訳	1 年次		2 年次		3 年次		学納金合計
	前期学納金	後期学納金	前期学納金	後期学納金	前期学納金	後期学納金	
入 学 金	200,000	—	—	—	—	—	200,000
授 業 料	300,000	300,000	300,000	300,000	200,000	200,000	1,600,000
実 験 実 習 料	30,000	30,000	30,000	30,000	40,000	40,000	200,000
施設設備資金	30,000	30,000	30,000	30,000	40,000	40,000	200,000
合 計	560,000	360,000	360,000	360,000	280,000	280,000	2,200,000
年 次 合 計	920,000		720,000		560,000		

- (1) 学納金は、前期・後期の2期分納です（後期は9月30日が納入期限となります）。
- (2) 上記学納金の他に、後援会費・保険料などの委託徴収金があります。
- (3) 委託徴収金（令和8年度予定額22,500円）は、入学手続の際に、令和8年度前期学納金と同時に徴収します。
- (4) 入学手続終了後、やむを得ない理由によって入学を辞退する場合は、令和8年3月31日(火)午後5時までに入学辞退届を入試・広報課にご提出ください。所定の期間内の入学辞退であれば、納入された前期学納金（入学金を除く）を返還します。ただし、推薦選抜は専願となりますので原則として入学辞退は認めません。
- (5) 本学の卒業（見込み）者及び银杏学園短期大学の卒業者については、入学金の半額（100,000円）を免除します。
- (6) 本学の卒業（見込み）者、银杏学園短期大学の卒業者及び本学の学外実習受入れ機関等の職員が、本学大学院に入学した場合は、学納金のうち授業料について半額（年額400,000円）を免除します。
- (7) 本学の教職員が本学大学院に入学した場合には、入学金の半額（100,000円）、授業料の半額（年額400,000円）、実験実習料の全額（年額100,000円）、施設設備資金の全額（年額100,000円）を免除します。
- (8) 授業料等の改定が行われた場合は、新しい金額が適用されます。

15. 奨学制度等

本学で取り扱っている奨学金は以下(1)～(3)のとおりです。詳しくは学務課（096-275-2128）にお問い合わせください。

(1) 熊保大大学院奨学金

※対象者は、令和8年3月に卒業見込みの本学学部生

※希望される方は、「熊保大大学院奨学金募集要項」を入試・広報課でお受け取りください。

(2) 社会人スカラシップ制度

※対象者は、本学社会人選抜入試の出願資格を有する者

(3) 日本学生支援機構奨学金（貸与型）

<教育訓練給付制度（一般教育訓練）について>

本研究科は、厚生労働省から教育訓練給付制度の一般教育訓練講座の指定を受けています。一定の要件を満たす雇用保険の被保険者（在職者）又は被保険者であった者（離職者）が、厚生労働大臣の指定する教育訓練を受講した場合に、ハローワークへ申請することにより、教育訓練施設に支払った経費の一部について給付を受けることができます。制度詳細については、最寄りのハローワークへご相談ください。

16. 受験に際しての注意事項

- (1) 受験者は、必ず受験票を携帯してください。受験票を持参し忘れた場合は、当日試験会場にて、係員に申し出てください。その際、本人確認ができるものを提示してください。
- (2) 試験室には、試験開始時刻の1時間前から入室できます。試験当日、各試験会場の案内板に試験室の受験番号を掲示しますので、試験室を確認のうえ、試験開始時刻の20分前までに各試験室に入室してください。
- (3) 試験開始後20分以上経過した遅刻者については、受験を認めません。
- (4) 試験室には、時計はありません。各自で用意してください。
- (5) 受験票のほかに試験時間中、机の上に置けるものは、黒鉛筆（H、F、HBに限る。和歌・格言等が印刷されているものは不可）、鉛筆キャップ、シャープペンシル（黒い芯に限る）、プラスチック製の消しゴム、鉛筆削り（電動式・大型のもの・ナイフ類は不可）、時計（辞書、電卓、端末等の機能があるものや、それらの機能の有無が判別しづらいもの・秒針音のするもの・キッチンタイマー・大型のものは不可）、眼鏡、ハンカチ、目薬、ティッシュペーパー（袋または箱から中身だけ取り出したもの）です。これ以外の所持品を使用または置いている場合には、解答を一時中断させて、試験終了まで預かることがあります。

※推薦選抜・一般選抜の受験者に限り、英語の試験で英和辞書（1冊）を使用してもかまいません。ただし、和英辞書や電子辞書（辞書機能を持つ携帯電話含む）の使用は認めません。

※社会人選抜（Ⅰ期）及び社会人選抜（Ⅱ期）において外国籍を持つ受験者に限り、小論文の試験で和英辞書もしくは日本語から母国語訳の辞書いずれか1冊のみを使用してもかまいません。ただし、電子辞書（辞書機能を持つ携帯電話含む）の使用は認めません。

- (6) 座布団、ひざ掛け、使い捨てカイロの使用を希望する場合は、試験開始前に監督者に申し出て許可を得てから使用してください。
- (7) 携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末（スマートウォッチやスマートグラス等）等の電子機器類は、試験室に入る前に必ずアラームの設定を解除し電源を切っておいてください。試験時間中に、これらをかばん等にしまわず、身に付けていたり手に持っているとは不正行為とみなされることがあります。
- (8) 英文字や地図等がプリントされている服等は着用しないでください。
- (9) 携帯品は各自で保管し、試験時間中は監督者の指示に従ってください。
- (10) 他の受験者の迷惑となる行為は行わないでください。注意等の指示に従わない場合は、退室させることがあります。
- (11) 試験時間内の退室は認めません。試験終了後は、監督者が指示するまで各自の席で待機してください。
- (12) 問題冊子の持ち帰りはできません。
- (13) 定期的に換気を行いますので、各自で寒暖の対策をしてください。
- (14) 昼食（弁当等）は、必要に応じて各自持参してください。

17. 健康上配慮が必要な方の出願について

■心身に障がい（学校教育法施行令第22条の3に定める障害の程度）を有し、本学において受験上及び修学上特別な配慮を必要とする方は、出願開始前までに入試・広報課に相談してください。

(1) 相談の方法：各入試区分の出願開始前までに、余裕をもって申し込んでください。

(2) 相談の申込：電話などにより事前に連絡をしたうえで、以下の書類を提出してください。必要な場合には、出願の前後で面談を行うことがあります。

① 相談申込書

※本学ホームページより、相談申込書をダウンロードし、必要事項を記入してください。

② 医師の診断書

(3) 申込み及び問合せ先

〒861-5598 熊本市北区和泉町 325

熊本保健科学大学 入試・広報課（電話）096-275-2215（FAX）096-245-3126

■その他の配慮が必要な方は、各入試区分の出願開始前までに、余裕をもって入試・広報課に相談してください。

(1) 相談の方法：電話などにより事前に連絡をしてください。必要な場合には、出願の前に面談を行い、必要な書類の提出をお願いすることがあります。

(2) 問合せ先

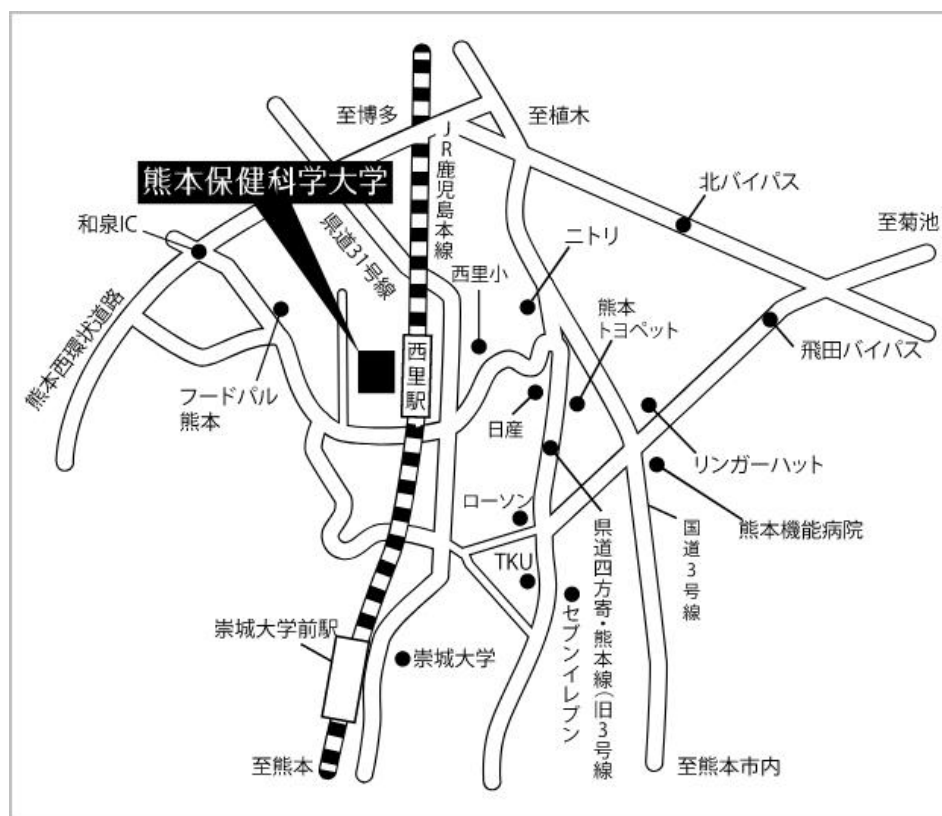
〒 861-5598 熊本市北区和泉町 325

熊本保健科学大学 入試・広報課（電話）096-275-2215（FAX）096-245-3126

18. 個人情報の取扱いについて

出願にあたって知り得た氏名、住所、その他の個人情報及び入学者選抜に用いた試験成績の個人情報については、本学の入学者選抜及びこれらに付随する事項に利用します。また入学者については、入学後の学務業務における学籍・成績管理、就学指導、奨学金の審査など教育目的のために利用し、法令に定める場合を除き、本人の同意を得ることなく、第三者に個人情報を提供しません。

19. 試験会場案内図



会場までの交通機関…JR「西里」駅、九州産交バス「西里駅前」バス停

起 点	JR 利用	バス利用	自家用車
JR 熊 本 駅	約 10 分		約 25 分
JR 上熊本駅	約 5 分	約 15 分	約 10 分
熊 本 桜 町 バスターミナル		約 25 分	約 20 分



熊本保健科学大学
Kumamoto Health Science University

〈問合せ先〉

入試・広報課

電話 096-275-2215(直通)

〒861-5598 熊本市北区和泉町 325

URL <https://www.kumamoto-hsu.ac.jp>

E-mail nyushi@kumamoto-hsu.ac.jp

保健科学研究科保健科学専攻概要

(1) 研究テーマ <臨床検査領域>

【病因・病態の検査科学】

研究テーマ	研究内容	教員氏名 (五十音順)	指導 資格
糖尿病・代謝学	生活習慣の変化や肥満の増加などを背景としてメタボリックシンドロームや糖尿病、肥満症などの疾患が増加している。特に代表的な生活習慣病である糖尿病は、インスリンの分泌や作用が障害されることによって発症し、きちんと管理しなければ様々な合併症をもたらす。また超高齢社会において、サルコペニアやフレイルといった病態も健康寿命を短縮する恐れがある。 本研究室では、インスリンの分泌や作用がどのように制御されているのか、糖尿病状態においてどのようにこれらが障害されていくのかを明らかにするとともに、網膜症や腎症あるいは動脈硬化症などの糖尿病合併症はいかにして発症するのかを解析する。また、生活習慣の改善によって、糖尿病や肥満症、あるいはサルコペニアやフレイルといった病態が予防や進展阻止が可能となるかを解析するとともに、生活習慣改善の効果をヒトを対象として実証する。	荒木 栄一 096-275-2168	○
血液学・感染制御学	1) 血液学に関しては、発作性夜間ヘモグロビン尿症（PNH）および慢性骨髄性白血病（CML）に関する臨床研究を多施設共同で行っている。患者データをもとにした臨床解析の手法を学ぶ。 2) 感染制御学に関しては、熊本県感染管理ネットワークの耐性菌サーベイランス情報をもとに菌株を収集し、分子疫学解析による耐性菌発生・伝搬状況を明らかにし、地域の感染制御活動に貢献する。耐性菌データベースの解析方法やPCR法などを用いた耐性菌の遺伝子解析技術を学ぶ。	川口 辰哉 096-275-2236	○
血栓・止血検査学、血液病学	世界の死因の25%以上を占める血栓症の再発予防にはアスピリンなどの抗血小板薬が用いられる。しかしながら、安全性・有効性・抵抗性などについての問題も指摘されており、既存の抗血小板薬より再発予防効果が高い薬剤の開発が急務である。一方、抗血小板薬服用患者の外科手術における出血量の低減は、患者QOL向上に極めて重要である。そこで、近年増加する血栓症予防のための抗血小板薬の開発に向けた基礎研究、外科手術に安全・安価に使用できる新規止血薬の開発に関する基礎研究を行う。さらには血小板活性化を制御する分子メカニズムや血小板製剤に関する研究も行う。 血小板の母細胞である巨核球は、造血幹細胞から核の多倍化と胞体の成熟を伴いながら分化・成熟し、分化の最終段階で胞体突起を形成する。この胞体の先端が断裂することにより血小板が産生されるが、そのメカニズムは十分には解明されていない。そこで、巨核球造血、特に血小板産生を制御する分子の探索と制御メカニズムについて研究を行う。	上妻 行則 096-275-2137	○
細菌学 ワクチン学 品質管理学	1) 毒素産生性細菌が引き起こす破傷風、ジフテリア、ボツリヌス症の病態、実験室内診断法、血清疫学、予防用ワクチンや治療用抗毒素製剤の製造と品質管理について、現状の問題点と将来のあり方について学ぶ。 2) 生物学的製剤の品質管理法のうち古典的な手法や実験動物を用いた試験法の代替法の必要性、および進みつつある現状を学ぶ。	高橋 元秀 096-275-2160	○
代謝学 糖尿病 肥満症 脂質異常症 動脈硬化	私の研究室では、現在国民病として捉えられている、糖尿病や脂質異常症、肥満症、メタボリック症候群といった生活習慣病に関連した研究を行っています。特に、これら代謝領域ではその合併症として動脈硬化症を引き起こしやすい背景がありますが、その動脈硬化症の発症のしくみを発見し、これまでにない新しい治療法開発に繋げることを目的とした研究を行っています。研究には動脈硬化に関連する血管構成細胞や、動脈硬化モデルマウスを用いますが、一方で、糖尿病や肥満症などの患者様を対象とし、その臨床的特徴や新たな検査機器の開発、あるいは治療法の有効性などを調査する臨床的な研究も行っています。研究テーマとしては、これら基礎領域の研究と臨床的な研究の2通りの研究から自分に合う研究を選択いただけます。特に臨床研究は、仕事を続けながら大学院を目指す方にとって、より選択しやすい研究だと思います。	松村 剛 096-275-2206	○

研究テーマ	研究内容	教員氏名 (五十音順)	指導 資格
病理細胞 形態学	病理細胞検査学は病態を細胞レベルで形態の微視的な変化を捉えて評価する学問です。細胞の結合性の異常や、核形態、核クロマチン分布の異常などを形態学的に見極めることが必要となる検査です。それらの客観的指標として不定形状や分布異常などをスケールに依存しない複雑性の評価（フラクタル次元解析）を利用した解析が可能となり、従来の形態所見に加え、新しい客観的指標を加味した形態学的研究を行っています。更に複雑系科学の中にみられる「べき分布」や「黄金比」など形態学に共通する意義についても明らかにしたいと考えています。	横山 俊朗 096-275-2186	○

【細胞分子生命科学】

研究テーマ	研究内容	教員氏名 (五十音順)	指導 資格
ウイルス学	効果が高い治療薬の開発とそれらを組み合わせた治療法の進歩により、かつて「死の病」とされた HIV-1 感染症 /AIDS は今や制御可能な慢性感染症へと変貌した。しかし一方で、HIV-1 の薬剤に対する耐性獲得は治療を困難にする大きな要因である。本研究では、未だ不明な部分が多い HIV-1 の薬剤耐性発現メカニズムの解明に焦点を当てると共に、HIV-1 等の病原体に対する薬剤開発に繋がる新たなターゲットの探索を試みる。	青木 学 096-275-2276	○
ケミカル バイオロジー	本研究は、生体内で特異的に機能する分子（バイオブローブ）を道具として、生命現象を解明することを目的としています。具体的には、1) レトロウイルス（主に HIV）の増殖に関係する生体内構成リン脂質（イノシトールリン脂質、カルジオリピン）を用いた創薬への応用研究、2) 血小板の老化を防止するマトリックスメタロプロテアーゼ（MMP）阻害剤の有効性の確認ならびに血小板老化機序の解明、さらには 3) ガンの転移にかかわる上皮間葉転換（EMT）を抑制する既存医薬品の探索を行います。 また、これらの研究戦略をもとにして臨床検査技術の開発も目指します。	安楽 健作 096-275-2235	○
生体防御学	ワクチンとは感染症の予防に用いる医薬品であり、弱毒化または不活化した病原体をその有効成分として利用し、人類の疾病予防に多大な貢献をしてきた。一方で、ワクチンはその目的から健康な人に対して使用するものであることから、その副反応がしばしば問題とされてきた。そのため、より副反応を抑えるために、病原体から必要な成分を取り出したコンポーネントワクチンが開発されているが、有効性や持続性の低下も指摘されている。 本研究テーマでは、様々な天然物や医薬品の中から、実験動物を使用した in vivo でのスクリーニングにより、コンポーネントワクチン化の流れにおいて有効性・持続性を維持するために必要とされる、より安全で使いやすいアジュバントを探索する。さらに、その過程で見出したアジュバントについては、作用メカニズムを解明し、効果的な接種経路や組成についても検討を行う。	上仲 一義 096-275-2184	○
病理学	難治性癌である小細胞肺癌において、カドヘリンが細胞接着に重要な役割を果たすことがわかっている。現在行っている研究では、小細胞肺癌細胞をスフェロイド培養することで、増殖や転移のメカニズムを明らかにし、カドヘリンの広範な機能解析を行うことを目的とする。具体的には、P-CADHERIN のノックダウンおよびノックアウト細胞および免疫不全マウスを用いて、カドヘリンの新たな機能について解析する。この研究により、小細胞肺癌におけるカドヘリンの重要な役割が明らかになり、新たな治療戦略の開発につながることを期待される。	亀山 広喜 096-223-5391	○

研究テーマ	研究内容	教員氏名 (五十音順)	指導 資格
病原体 ゲノム情報 解析学	マルチプレックス PCR 等の迅速キットにより検査全般で簡略化が進んでいる。しかしながら、確定診断には臨床検体から病原細菌を分離・同定することが重要であり、熟練の分離同定術が求められる。MALDI-TOF-MS（質量分析法）による簡易種同定法も広く利用されているが、ゲノム情報を活用すれば病原性・薬剤耐性も含めた完全なる検査同定が可能である。 本研究課題では、次世代シーケンサーと病原体ゲノム情報解析法を学び、修士号取得後でも有効活用できる技能習得、将来の人材育成を目指す。以下の課題にチャレンジする。 ・セフテム系耐性腸内細菌目細菌（つまり、ESBL 産生菌） ・その他、薬剤耐性菌を中心に。 ・原因不明の感染症疑い症例等（マルチプレックス PCR 陰性の症例）	黒田 誠 096-275-2182	○
発生・再生 医学	近年、体を構成するさまざまな種類の細胞へと分化する能力を持つ Embryonic Stem (ES) 細胞や induced Pluripotent Stem (iPS) 細胞等の多能性の幹細胞を用いて、損傷した体の組織を修復しようという再生医療が進められています。本研究では、この幹細胞に着目し、幹細胞がどの様にしてそれぞれの組織の細胞へと分化するのか、さらに損傷した組織を修復するには、分化させた細胞を移植した後、どのような処置を施せばよいのかを調べていきます。具体的には、生殖細胞や筋細胞の発生・分化に異常を示す遺伝子改変動物（マウス）をモデルとして、それぞれの細胞系譜へと分化するにはどのような遺伝子の働きが必要なのかを細胞培養系や組織学・分子生物学の実験系を用いて明らかにしていきます。さらに、分化誘導した細胞が、どのような処置により効率的に移植先の損傷した組織に定着して修復できるのかを検討していきます。このような研究は、ヒトの再生医療の現場における効果的なリハビリテーション法の開発に繋がる成果が期待されます。	田中 聡 096-275-2150	○
遺伝子解析 学	近年の臨床検査では、分子生物学の急速な進歩に伴って、分子・細胞レベルから組織・器官レベルに亘って様々な生体情報が得られるようになってきている。本研究では生体・細菌等から得られるゲノム情報等を的確に把握分析して、生活習慣、素因、病原体が健康に与える影響の解明や疾病予防、疾患発生の可能性の判定に利用できる理論や技術を研究すると共に、遺伝子変異と疾患の関連、あるいは薬剤耐性と変異についての解析研究を行う。	檜原 真二 096-275-2163	○
生体機能分 子学	ミトコンドリアは真核生物のエネルギー産生と代謝において重要な役割を担っている。さらには、近年、ミトコンドリアの機能不全が様々な病態の発症に大きな影響を与えることも明らかにされている。現在、我々は、ミトコンドリアの機能不全に基づく病態の発症機序を明らかにすることを目的とし、以下の基礎研究を進めている。 1) ミトコンドリア機能不全の原因となるタンパク質の同定とその機能に関する解析 2) ミトコンドリア機能不全により引き起こされる細胞応答に関する解析	矢野 正人 096-275-2114	○
公衆衛生学	現在日本においては環境要因が子どもの成長や発達に与える影響を明らかにするために、実験によるメカニズムの解明を図るとともに、「小児を取り巻く環境と健康との関連性に関する疫学調査」としてエコチル調査が行われている。2011 年 1 月から 2014 年 3 月までにリクルートされた約 10 万人の妊婦と、約 5 万人の父親、約 10 万人の子供が参加し、子供の参加者が 13 歳に達するまでの計画として追跡調査を行っている。エコチル調査ではアンケート調査、血液や尿サンプルの解析など、さまざまな調査が行われている。本研究では上記のデータを用いた統計解析、サンプルの解析、細胞を用いた実験による環境化学物質のヒトに対する影響等を行う。	山口 類 096-275-2213	○

(2) 研究テーマ <看護領域>

研究テーマ	研究内容	教員氏名 (五十音順)	指導 資格
老年看護学 リハビリテ ーション看 護学	老年期を生きる人に限らず、これから老年期を迎える人をも対象にし、予防的介入からエンドオブライフ期まで、よりよく生きることを支えるための看護を探究します。 1. 認知症の症状への対処や認知症リスクの低減にむけた研究 2. 脳卒中の緩和ケアに関する研究	飯山 有紀 096-275-2260	—
看護教育学 基礎看護学	看護や教育など、目の前の「その人」との関係において為される専門職の実践は、その時々状況において判断を求められる極めて状況依存的な実践であり、“自らの実践経験から学ぶ”ということが重要になってきます。現在、“経験から学ぶとはどういうことか”“経験からの学びを支援するとはどういうことか”という問いのもと、「省察（リフレクション）」や「看護教育」をテーマに、看護師や看護教員の看護教育実践の解明、探求、学生の看護技術習得に向けた教育方法の開発などに取り組んでいます。	井上 加奈子 096-275-2254	—
母性看護学	近年、女性の生涯や役割の多様化、医学の進歩・発展、晩婚・晩産化、少子高齢化、生活環境の変化など、女性を取り巻く環境は大きく変化しています。このような背景にある女性の生涯の健康に着目し、QOLの向上を目指した研究を行ってきました。各ライフステージにある女性の健康問題や母子とその家族を取り巻く課題を明らかにし、支援について探求していきます。	甲斐村 美智子 096-275-2234	○
成人慢性期 看護学	1) 終末期患者とご家族のQOL向上に関する研究 終末期患者とご家族のQOL（生活の質）の向上を目指し、さまざまな視点から研究に取り組んでいます。具体的には、ご家族が抱えるストレスへの対処方法の探究や、患者とご家族がともに安心して過ごすことができる終末期ケアモデルの開発などを行ってきました。 「患者さんとご家族が少しでも穏やかに過ごせるように」、「大切な方との時間が、その後の人生の糧となるように」という思いを胸に、終末期ケアの在り方を探求しています。 2) その他の研究 終末期ケアに限らず、看護の専門性や魅力を生かし、対象となる方々の生活の質を高めるための研究指導にも取り組んでいます。看護が持つ力や強みをともに学び、それを現場や社会へとつなげていきましょう。	熊谷 有記 096-275-2134	○
地域看護学	我が国の医療・看護を取り巻く社会環境は加速度的に変化し、医療の高度化や医療技術の進歩、少子高齢多死社会の進展に伴い健康課題は多様化しています。これまで、地域のなかで人びとの死生観や障害観が重度の要介護者やその家族にどのような影響を及ぼすかを研究してきました。人口は減少し医療は高度化、長寿化した日本において、わずかな健康寿命の延伸はみられるものの今後の介護の長期化と重度化は避けられない状態です。このような超少子高齢多死社会の中で最終的な看取りの場所の8割は病院となっており、人びとがどこで、誰にケアを受け、療養の場所を過ごしていくかは、喫緊の課題です。看護は実践の科学と言われます。実践の場面において人間を対象とし、その人の「生命」「健康」「暮らし」を守り支えるための支援を、専門職としてエビデンスをもって探求していくからです。さらに、その人や家族だけでなく、その人が生活する環境やシステムも研究の対象となっていきます。地域の看護実践の場で、その看護の意味を探究し言語化していくことをとおして、看護の社会的意義を再構築しこれからの看護の展望を考えていきます。	竹熊 千晶 096-223-5031	○
公衆衛生看 護学	少子高齢化などの社会の変化を背景に、地域での保健師の活動に対するニーズは複雑化、多様化してきています。しかし、保健師の活動はわかりにくい、効果が見えにくいともいわれます。そのため、それらを言語化するとともに、効果的な活動を考えることに寄与する研究活動を行ってきました。主要な研究内容は、行政保健師の公衆衛生看護管理にかかわることや保健師のスキルの明確化、地域における住民活動などです。保健師活動の質の向上につながるテーマを探究します。	鳩野 洋子 096-275-2164	○

研究テーマ	研究内容	教員氏名 (五十音順)	指導 資格
精神看護学	精神看護では、精神障害に関わる狭義の精神看護と、広く人間の精神保健を扱う広義の精神看護があります。現在の取り組みとして、精神障害に関わる研究では、入院治療から地域へと推進する精神科医療の流れに沿って、どのような支援が必要かを探求しています。また、広義の精神看護では、患者や家族、看護師を対象にした精神的ケアに関する研究、特に悲嘆への精神的ケアについて探求しています。 1) 精神科における退院支援に関する研究 2) 精神障害に対応した地域包括ケアに関する研究 3) 家族の悲嘆やグリーフケアに関する研究	久松 美佐子 096-275-2259	○
看護教育学 感染予防 看護学	1) 専門職である看護職は個々のキャリアビジョンの実現に向かって、継続的に主体的かつ自律的に生涯学習に取り組むことが求められます。学生や看護職を対象に自己調整学習理論及びリフレクションを用いた介入により、自主的な学びのサイクルを回すメカニズムの解明と臨床判断能力を養成する方法を探究します。 2) 医療・介護施設において、毎年、感染予防教育が行われますが、スタッフの行動変容や習慣化を図ることは難しいのが現状です。行動理論に基づき、各施設の状況に合わせた新たな感染予防教育の手法を見出し、その効果を検証します。	前田 ひとみ 096-275-2224	○
感染看護学 成人慢性期 看護学	感染症は健康や生命活動を大きく障害するだけでなく、人々の生活の質に重大な損失をもたらします。その損失やリスクを低減する為に、エビデンスを基に病院・在宅・施設の易感染者・感染症患者の看護における課題を科学的・論理的手法を用いて探求します。また、慢性疾患の増加に伴い深刻な健康問題を抱える成人の健康管理と生活の質について、病とともに生きるという観点から研究を行います。これまでに、標準予防策の遵守行動、Infection Control Nurse の役割、ワクチン接種行動と副反応、パンデミック下における看護管理など感染看護に関する研究、COPD 患者の呼吸苦、HIV 感染者の抑うつなど患者の苦痛、脳死下臓器摘出術を担当する看護師の心理的準備など、慢性期看護や看護者の困難に関する研究を行ってきました。看護システム管理や教育も含め、看護の質・対象者の生活の質を高めるテーマを探求します。	森 みずえ 096-223-5140	○
口腔機能 口腔ケア	口腔機能は、摂食嚥下機能に直接的に関与し、さらに発音や審美性といった社会性にも関与することから QOL との関連性は高く、口腔は重要な器官といえます。成人期から歯周病のリスクは高まり、近年では糖尿病などの生活習慣病との関連性が多く報告されています。したがって、成人期以降、歯周病予防としての口腔ケアの再獲得が必要と考えています。 また、臨床看護師としては、化学療法による口腔粘膜炎、高濃度酸素療法による口腔乾燥症など治療期にある患者に対して専門的な口腔ケアのスキルと評価が求められていますが、各大学における基礎教育での教育方法は差がある事態があります。看護師が行う専門的な口腔ケアの修得に向けた教育について探求します。	吉田 理恵 096-275-2238	—
看護倫理 看護教育	医療を取り巻く環境は、患者の高齢化や医療技術の高度化・複雑化などに伴い日々大きく変化しており、専門職としての看護師に求められる役割も変化している。現代の看護職（看護学生）には、知識・技術の研鑽はもちろんのこと、国際化や家庭環境の変化などに伴って発生する多様な倫理観への理解と対応も求められている。そのため、看護学生、看護職者、看護教員らに対する倫理的感受性を高める方法、倫理的ジレンマの解決へ向けた方策を探求していく。	吉野 拓末 096-275-2231	—

(3) 研究テーマ <リハビリテーション領域>

【理学療法学】

研究テーマ	研究内容	教員氏名 (五十音順)	指導 資格
運動生理 機能解析学	温熱療法は物理療法の一つであり、日本の湯治や北欧のサウナのように様々な様式で身近に用いられ、文化的には長い歴史を持つが、科学的には未だ解明されていないことも多い。健常者や患者を対象に、サウナや入浴の介入による呼吸・循環動態の変動に関する臨床生理学的研究及び腎不全や肝不全等の疾病モデルラットを用い、サウナの反復による影響を生理学的、生化学的にアプローチし、温熱療法の科学的根拠の確立と利用方法の拡大を目指す。	飯山 準一 096-223-5368	○
内部障害系 理学療法学	臨床において温熱療法は、これまで主に疼痛の緩和や筋スパズムの軽減を目的に活用されてきました。しかし近年、基礎研究の進展により、慢性腎臓病（CKD）や糖尿病、肝切除前処置、急性呼吸窮迫症候群（ARDS）など、これまで対象とされてこなかった内部障害への応用が注目されています。私たちは、とくに慢性腎臓病および急性腎障害に対する温熱療法の潜在的な効果に着目し、臨床と基礎研究をつなぐ視点から、患者にとって本当に意味のある知見を追求しています。 内部障害に対する理学療法は、「手で触れる医療」から「細胞に届く介入」へと進化していきます。現在、私たちの研究室では、温熱に曝露されたマクロファージが、シスプラチンなどの薬剤によって障害される尿細管上皮細胞にどのような影響を与えるかを、細胞株を用いた分子解析・組織染色・遺伝子発現解析などの手法を組み合わせることで詳細に検討しています。 今後は、臨床応用も視野に入れながら、熱ストレス応答が全身に与える影響を包括的に解明し、新たな内部障害リハビリテーションの確立を目指して研究を進めていきます。	岩下 佳弘 096-275-2140	○
摂食嚥下 理学療法学	摂食嚥下リハビリテーションは多職種連携の下で行われますが、その発展のためには、理学療法学の視点からの評価やアプローチを確立することも必要ではないかと考えています。例えば、筋機能、呼吸循環機能、ポジショニングの評価やアプローチ（徒手療法、温熱療法、寒冷療法、電気刺激療法など）が例として挙げられます。 研究指導においては、本学の摂食嚥下研究チームのメンバー（臨床検査技師、言語聴覚士、作業療法士、看護師、保健師）への相談体制も出来ています。そして、理学療法士ではない方でも受け入れ可能です。	久保 高明 096-275-2113	○
運動器理学 療法学 予防理学 療法学	高齢健常者や股関節外傷術後患者等を対象に歩行や起立・着座動作の質を定量化する研究に取り組んでいる。主に、計測制限の少ないモーションセンサを使用し、データの妥当性を検証している。体幹加速度等の変化から周波数解析を用いて規律性・対称性・円滑性などを数値で評価する有用性を検討している。高齢者や臨床データ蓄積の一助となるよう取り組みを進めている。	嶋村 剛史 096-275-2162	—

研究テーマ	研究内容	教員氏名 (五十音順)	指導 資格
予防医学 神経科学 神経薬理学 動物行動学 食品の機能性	研究指導内容：臨床の「なぜ？」を解き明かし、未来の医療へ貢献する 私たちの研究室では、臨床現場だけでは解明が難しい病態の謎を、動物モデルを駆使して解き明かし、その成果を革新的な予防法や治療法として臨床応用へと繋げることを目指しています。あなたが臨床で抱いた疑問や、まだ誰も答えを見つけていない課題に、私たちと一緒に挑戦しませんか？ 重点研究領域：現代社会の健康課題に多角的にアプローチ 主に以下の領域を中心に、疾患メカニズムの解明から、予防・治療法の開発まで、幅広い視点から研究に取り組んでいます。 ● 脳神経疾患の克服を目指して： ○ 認知症（アルツハイマー型、脳血管性等）：根本治療・改善法開発への挑戦 ○ 脳卒中：予防法と革新的治療法の開発 ○ 子どもの発達と記憶：神経科学的側面からの理解と支援 ○ 末梢刺激による中枢神経系の変化：記憶・神経可塑性のメカニズム解明と応用 ● 生活習慣病の予防と治療： ○ 糖尿病・肥満：病態解明と新規治療戦略の確立 ○ 機能性食品開発：科学的根拠に基づいた食品の新たな可能性の探求（産学連携プロジェクト含む） ● 健康を支える基盤研究： ○ 漢方薬・食品の機能性解明：伝統の知恵を科学で検証し、健康増進へ ○ 環境化学物質の人体影響：ダイオキシン類等の影響把握と治療法開発（厚生労働省プロジェクト） ○ ミトコンドリア機能：様々な疾患における機能不全回復の効果検証と治療応用 ○ 痛みの制御：慢性疼痛などのメカニズム解明と新規鎮痛法の開発 現在進行中の主な研究テーマ例： 1. 認知症の根本治療・改善法開発： アルツハイマー型や脳血管性認知症に対する新たなアプローチを模索します。 2. 発達障害の科学的理解と支援： 発達障害のメカニズム解明と、早期発見・介入法の開発を目指します。 3. 末梢からの刺激が脳機能を変える： 記憶や神経可塑性に対する末梢刺激の効果とその機序を解明します。 4. 食で挑む生活習慣病： 糖尿病・肥満等に対する機能性食品の開発に取り組めます。 5. 新たな機能性食品の創出： 食品成分の未知なる可能性を追求し、健康寿命の延伸に貢献します。 6. 環境と健康： 食品を介したダイオキシン類等の人体への影響を精密に把握し、その治療法開発を進めます。 7. ミトコンドリアから健康を再建する： 様々な疾患で見られるミトコンドリア機能不全の回復を通じた治療効果を検証します。 私たちの願い：共に未来の医療を切り拓く 「病気の予防こそ最善であり、発症した際には迅速かつ効果的な治療を」という信念のもと、私たちは日々研究に邁進しています。しかし、臨床の現場には、まだまだ解明されていない謎が多く存在します。その「なぜ？」を解き明かしたいという探求心、そしてその成果を社会に還元したいという熱意を持つあなたを、私たちは心から歓迎します。基礎研究から臨床応用への橋渡しを担う当研究室で、あなたの知的好奇心と情熱を燃やしませんか？興味を持たれた方は、ぜひお気軽にご連絡ください。共に研究できる日を楽しみにしています。	申 敏哲 (シ ミンチョル) 096-275-2158	○

研究テーマ	研究内容	教員氏名 (五十音順)	指導 資格
神経科学リ ハビリテー ション	1) ヒトにおける運動感覚機能促進及び抑制の解明 経頭蓋大脳磁気刺激、F 波、体性感覚誘発電位を用いた中枢（運動・感覚）神経機能の評価を行った上で運動や直流電気刺激、経頭蓋ランダムノイズ刺激等を頭蓋上に与えることによって起こる中枢神経や脊髄神経レベルの促進や抑制現象を研究しています。 2) 小動物における運動・感覚神経の評価と回復機序の解明 ヒトで用いられている経頭蓋大脳磁気刺激、体性感覚誘発電位及び事象関連電位を用いて小動物で記録することで、動物の中枢（運動・感覚）神経及び認知機能の評価します。また、モデル動物（半側空間無視モデル、坐骨神経損傷モデル、線維筋痛症モデル）を用い、運動刺激、振動刺激、視覚刺激のような介入が中枢神経系にどのように効果を有するのかを検証し、ヒトへの治療に繋げていく事を目的とします。 3) ビデオシステムや加速度計を用いた簡易な行動評価の定量化 ImageJ、 加速度計やフリーソフトウェアを用いて上下肢の運動や歩行できない方々の日常生活動作を簡単に定量評価し、臨床で使えるような簡易システムを研究しています。 4) その他 私の専門である神経系の研究ばかりでなく、運動器や種々の領域に関する基礎及び臨床研究の指導も可能です。 メールアドレス：doi@kumamoto-hsu.ac.jp	土井 篤 096-275-2258	○
地域理学療 法学	地域包括ケアの構築に向け、リハビリテーション専門職に求められる内容は、 医療や在宅支援関連の施設・事業におけるリハビリテーションだけでなく、地域における予防事業の支援まで幅広くなっている。そこで、これまでのクリニカルクエストを基に、研究課題を設定し、地域リハビリテーションの理念に沿い、研究成果を対象者の生活の維持・改善に役立てることを目指す。具体的には、地域在住高齢者を対象とした、予防事業の効果、フレイルの予防法及び簡便な評価方法の開発、地域ボランティアの活用効果を主要なテーマとして取り組んでいる。	中原 和美 096-275-2267	○
リハビリテ ーション科 学 バイオメカ ニクス 神経理学療 法学 スポーツ科学	私たちの研究グループでは、活動や社会参加を妨げる要因を明らかにするため、心身機能や身体構造の問題をバイオメカニクスの視点から解析している。主な計測機器として光学式 3 次元動作解析システム、マーカーレス動作解析システム、表面筋電図計、BIODEX を用いており、データ解析には数値計算ソフト MATLAB や動作解析ソフト Visual3D を使用している。 以下に、現在取り組んでいる研究テーマの一例を示す。 1. 脳卒中患者の歩行時の代償動作に関する個別性の解明と臨床意思決定支援ツールの開発 2. 路面環境に適応するための歩行戦略に対する加齢および疾患の影響 3. ジャンプ着地時の衝撃力制御に関与する要因の解明 4. スポーツ関連動作のパフォーマンス向上に寄与する要因の解明	本田 啓太 096-275-2162	○
運動機能解 析学	我々は、生体力学的観点から身体運動の制御特性を明らかにする事に取り組んでいます。モーションキャプチャーシステム・フォースプラットフォーム・筋電計などにより計測されたデータを用いて、逆動力学計算やシミュレーションなどの研究手法を用いた解析を行なっています。対象分野として、競技スポーツ・障害予防・健康増進・街づくりに関する事に取り組んでいます。また、近年では他分野とのコラボレーションを積極的に進める事で、新領域の創成にチャレンジしています。	松原 誠仁 096-275-2147	○

研究テーマ	研究内容	教員氏名 (五十音順)	指導 資格
リハビリテーション科学 身体運動学 生体評価学	ウェアラブルセンサーや超音波画像診断装置を用いて、「動作分析の技術を実際の臨床場面で活用すること」を目標に、ヒトの動作分析（歩行など）を中心に研究をしています。 対象は入院患者から地域在住高齢者、健常成人などであり、健康増進に向けて幅広く取り組んでいます。 1. ウェアラブルセンサーを用いて、入院患者や地域在住高齢者の歩行を中心とした動作分析、歩行中の関節角度を使用した歩行練習などを行っており、各対象者に効果的な歩行練習の実現に向けて取り組んでいます。 2. 超音波画像診断装置を用いて筋の収縮動態の可視化などを試みており、より効果的な筋力トレーニングの実施に向けて取り組んでいます。	宮崎 宣丞 096-275-2162	—
運動学習	理学療法士は基本動作や日常生活動作、スポーツ動作等の様々な運動技能を患者に指導します。このような練習や経験を通して運動技能を習得する過程を運動学習と言います。 運動学習には課題配置、注意の方向付け、教示の与え方、フィードバックの与え方など様々な要因が影響を及ぼします。その中でも、私はこれまでにフィードバックの与え方の違いが運動学習に及ぼす影響について検証してきました。現在は、より効果的に運動学習を生じさせるための練習方法の開発やこれまでに明らかにされたことを実際の練習場面に応用するための研究に取り組んでいます。	山本 良平 096-275-2154	○
呼吸リハビリテーション学 健康増進学	呼吸リハビリテーションにおける疾患特異的評価の開発や、これまでに慢性閉塞性肺疾患（COPD）を対象として検討されてきたエビデンスを、COPD以外の慢性呼吸器疾患（間質性肺炎など）においても研究の発展を目指す。 また、健康増進の領域において、中高年者が健康で充実した日常生活を送るうえで、一定の体力水準を維持することが重要と言われており、中高年者の健康管理が注目されている。そこで、持久力評価の開発や妥当性・信頼性の検討、および運動療法への応用などを目指す。	與座 嘉康 096-275-2192	○

【作業療法学】

研究テーマ	研究内容	教員氏名 (五十音順)	指導 資格
リハビリテーション科学 実験心理学 認知心理学	我々は、これまで若齢者や高齢者、疾患既往者を対象として、ワーキングメモリや運動イメージなどの認知機能プロセスを明らかにするため、行動学的や神経学（脳活動）的な手法を用いた研究を行ってきました。以下に近年取り組んでいる研究テーマの一例を示します。 1. 身体障害（脳血管障害、高次脳機能障害）の機能回復に関する研究 2. 若齢者や高齢者の運動イメージ能力やバーチャル・リアリティ（VR）介入に関する研究 3. 発達障害（ADHD・ASD・LD）児の認知機能の特性や支援に関する研究 これら研究テーマの解明に、実験心理学（実験プログラム作成・脳活動測定・視線計測・バーチャルリアリティ）、統計学的手法も用いながら取り組んでいるので、興味のある方は研究テーマを含めてご相談ください。 kotegawa@kumamoto-hsu.ac.jp	小手川 耕平 096-275-2162	○
発達障害作業療法学 地域リハビリテーション学	地域の子どもから高齢者までを対象とした、地域生活支援に関連する研究を行っています。地域在住の子どもや高齢者の心身機能や生活状況、課題等のデータを測定し、得られたデータをもとに、必要な支援について検証しています。また、対象者の家族支援もテーマとしており、家族の心理状態や家族教育も検証しています。 子どもから高齢者までの地域課題を明らかにし、ライフサイクルの観点から継続的な支援をするためにはどのような方法があるのかを一緒に検証していきたいと思っています。	仙波 梨沙 096-275-2148	○

研究テーマ	研究内容	教員氏名 (五十音順)	指導 資格
認知症学 作業活動 分析学	「認知症施策推進大綱」でも認知症に対しては「共生」と「予防」の両輪で取り組むことが示されている。我々は、これまで多職種連携チームで予防のための実践的研究や、認知症の対象者に対するより良い生活（活動）支援方法について熟練者の分析などを通じて探索してきた。対象者の認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望を持って日常生活を過ごせる社会を目指し、行動分析など種々の研究手法を用いて分析し、作業遂行上の問題点や強み、作業遂行を促進する適切な環境・代償手段について検討する。また、園芸など活動を用いた作業療法の効果を示すため、実践的研究に取り組む。	爲近 岳夫 096-275-2269	○
リハビリテーション科学 地域リハビリテーション学	我々は左右大脳半球のもつ空間優位性に着目し、加齢に伴う変化や脳卒中などによって生じる空間認知の問題について研究しています。主に高次脳機能障害の中でも半側空間無視に対する介入研究、プリズム順応課題の効果検証に関連する基礎研究、virtual Reality を用いたプリズム順応の効果検証、音源定位に関する研究等に取り組んでおります。 また、フィールドワークとして、各種予防事業の効果判定や地域在住高齢者に焦点を当て社会的孤立・孤独の一次予防を目的としたコミュニティ・シェッド（メンズ・シェッド、ウィメンズ・シェッド等）の社会実装とその効果検証に着手しています。このフィールドワークでは高齢者を対象に総合評価を行い、フレイルや抑うつ、孤立・孤独が生じない社会を目標に調査研究を実施しております。 上記研究テーマに興味のある方は是非ご相談ください。 matsuo-ta@kumamoto-hsu.ac.jp	松尾 崇史 096-275-2283	○
地域リハビリテーション学	高齢者の要介護の原因のひとつにフレイルがある。フレイルは、身体的側面だけでなく、心理的、社会的側面も含む多面的な概念として認識されています。したがって、地域在住高齢者においてフレイルを評価し、適切な介入を行うことは重要です。そこで、地域在住高齢者のフレイルの多面的な側面、重要としている活動や抑うつ、社会参加状況な総合的な評価を用いて、フレイルと身体・心理・社会的への問題について研究を行うための健康調査を実施しています。	宮田 浩紀 096-275-2162	○
教育心理学 教育開発 プログラム 自己効力感	臨床現場や教育現場においても、対象者の自己効力感をどのようにして高めることができるか、多くの作業療法士が注目していると思います。臨床現場での対象者へのアプローチ効果、新人教育、実習生教育、養成校の教育効果など、様々な自己効力感向上のための効果検証を一緒に行っていきましょう。	安田 大典 096-275-2203	○
生命倫理学 臨床倫理学 専門職倫理学	保健・医療・介護・福祉に従事する人が日常の中で直面する倫理的問題について取り上げ、その問題をどのように考え、いかにして判断を下すべきかについて論理的に説明することで、医療福祉政策への提言につなげるための研究を行っている。 指導教員は作業療法士であるが、生命倫理、臨床倫理、専門職倫理（職業倫理）に関する研究であれば職種やテーマは限定しない。現在、指導教員が主に取り組んでいる研究テーマは下記の4つである。 1. リハビリテーション医療の臨床現場において生じる倫理的問題の特性と解決に導くためのモデル開発。 2. リハビリテーション専門職（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）が有すべき徳に関する研究。 3. リハビリテーション医療における適切なインフォームド・コンセントのあり方に関する研究。 4. 保健・医療・介護・福祉に従事する専門職が有すべき職業規範（職業倫理）と職業倫理教育のあり方に関する研究	山野 克明 096-275-2142	○

【言語聴覚学】

研究テーマ	研究内容	教員氏名 (五十音順)	指導 資格
高次脳機能障害学 医療系社会学	高次脳機能障害学の分野では、急性期における高次脳機能障害の予後予測、アルツハイマー病や前頭側頭葉変性症といった認知症に関するテーマを扱っています。「認知症」に関しては、原発性進行性失語の評価を行う機会に恵まれ、大変興味深く思いながら関わらせていただいています。医療系社会学では、卒前教育や卒後教育に関わる種々の要因を量的・質的な手法を用いて取り組んでいます。最近では「自己効力感」に注目しており、言語聴覚士自己効力感尺度の開発を行っています。高次脳機能障害や卒前・卒後教育関連の研究に取り組みたいという方は気軽に相談ください。 連絡先：ikezaki.hi@kumamoto-hsu.ac.jp	池 寄 寛 人 096-275-2149	○
言語発達障害学 発達心理学	幼児期から学童期、青年期にかけての言語発達やその障害について研究しています。発達心理学の領域での代表的な研究方法を用いて、子どもたちの言語発達、特にナラティブや会話の発達をテーマにしています。さらに、言語発達と認知、対人相互交渉、大人のかかわりなどとの関係についても調べています。 研究対象は、定型発達、発達障害、吃音、海外にルーツのある子どもなどです。研究方法は、実験法や行動観察法、支援方法の検証など実証的な研究を行います。	井 崎 基 博 096-275-2209	○
失語症学	コミュニケーションの基本となる「話す」、「聞く」、「読む」、「書く」について言語情報処理モデルを想定し、失語症者のしめす言語障害を、認知神経心理学的視点から分析・検討する。最終的には、失語症に対する新たな評価法や訓練法を提案することを目的とする。	大 塚 裕 一 096-275-2205	○
摂食嚥下障害学	高齢化社会や医療環境の変遷に伴い、摂食・嚥下機能への関心が高まっています。しかしながら、摂食嚥下障害に対する臨床的アプローチの中にはエビデンスが不明な点も多々みられるのが現状です。嚥下機能に及ぼす要因としてテクスチャー、一口量、嚥下時姿勢などが挙げられます。これらの要因と嚥下運動との関連を明らかにするため、嚥下機能検査や神経生理学的検査などを用いて研究し、摂食嚥下に関する運動生理および障害についてエビデンスの確立を目指します。 この研究は、摂食嚥下障害学領域における医学検査学科、リハビリテーション学科、看護学科から摂食嚥下領域の専門家で構成される本学の摂食嚥下研究チームのサポートを受けることで、幅広い職域の横断的研究も可能です。	古 閑 公 治 096-275-2216	○
高次脳機能障害学 発達障害児の地域支援	高次脳機能障害の一つである、数概念や計算の障害に関して研究を行っています。数や計算の障害は脳血管障害等による高次脳機能障害として生じることがありますが、学習障害児の中にも数概念や計算の獲得に特に困難を示す例が存在します。この発達性計算障害については、就学期の児童・生徒に対する支援方法の確立が急務ですが、評価や支援の方法が十分には確立されていません。そこで現在、健常児における計算の獲得過程や、数概念や計算の獲得に関連する認知機能に関して研究を進めています。また、言語聴覚学専攻の小児領域の先生方とともに、地域の小学校と連携しながら、発達障害児の地域支援についても実践的な研究を行っています。	永 友 真 紀 096-275-2219	—
高次脳機能障害学	高次脳機能障害に関して、『この症状はなんだろう』『この特徴は他の特徴とどのような関連性があるのか』『このような評価方法で検討できないか』『このような介入は効果があるのか』などの疑問を明らかにするために、発現機序の検討や神経心理学的検査・機器（視線計測装置、近赤外線スペクトロスコープ）を用いた検討に取り組んでいます。最近では、高次脳機能障害者の就労支援に関するテーマも扱っています。興味のある方は気軽に下記までご相談ください。 連絡先：hatazoe@kumamoto-hsu.ac.jp	畑 添 涼 096-275-2219	—

研究テーマ	研究内容	教員氏名 (五十音順)	指導 資格
摂食嚥下 障害学	超高齢社会に突入した我が国では、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間である健康寿命をいかに伸ばすかについての関心が高まっている。健康寿命を延伸させるためには、いつまでも口からおいしく食事ができることが重要だと考える。 高齢者が口からおいしく楽しみながら食事を続けていくための効率的かつ効果的なサポートの実現を目的とし、摂食嚥下に関わる研究を行う。	松原 慶吾 096-275-2146	○
言語学 言語心理学 認知科学	一般的な音声学・言語学に関する内容から、実験心理学的手法による人間の言語処理過程まで幅広いテーマを扱っています。最近では、各種臨床データに対し、種々のデータサイエンスの手法を用いた解析を行っています。さらに、まだ数値化されていない言語属性のデータベース化、既存の主観的言語属性の因子構造の解析、言語検査の作成といった仕事にも従事しています。言語聴覚士の方で、身近な問題を研究としてまとめたいという方は気軽に下記までご相談ください。 連絡先：mizumoto@kumamoto-hsu.ac.jp	水本 豪 096-275-2232	○
摂食嚥下 障害学 失語症学	「失語症学」の領域では、失語症の文理解・表出に関して、これまでの評価や訓練法では考慮されていなかった動詞や格助詞の意味用法から見た失語症者の構文ネットワーク構造の解明、また、その構文ネットワーク構造に基づいた評価及び訓練法の検討を行っている。 「摂食嚥下障害学」の領域では、喉頭挙上改善を目的とした簡易な間接訓練法について、また、食事姿勢の違いが嚥下機能に与える影響についてなど、摂食嚥下チームの中で研究を進めている。	宮本 恵美 096-275-2212	○

(4) 令和7年度授業科目一覧【参考】（※令和8年度は変更となる場合があります）

授 業 科 目			単位数		開講 時期
			必修	選択	
共 通 科 目	保 健 学 研 究 論		2		前期
	保 健 医 療 科 学 特 論			2	前期
	生 体 防 御 学 特 論			2	前期
	細 胞 生 物 解 析 学 特 論			2	後期
	レギュラトリーサイエンス特論			2	前期
	統 合 医 療 学 特 論			2	後期
	高 次 脳 機 能 障 害 学 特 論			2	後期
	地域の保健・医療・福祉研究特論			2	後期
	保 健 科 学 教 育 特 論			2	後期
	保 健 科 学 教 育 演 習			2	後期
専 門 科 目	臨床検査領域・看護領域・リハビリテーション領域	臨 床 検 査 診 断 学 特 論 ¹⁾	2		前期
		看 護 学 特 論 ²⁾	2		前期
		リハビリテーション学特論 ³⁾	2		前期
		感 染 症 学 特 論		2	前期
		臨床病理・細胞診断学特論		2	後期
		病 態 解 析 学 特 論		2	前期
		生 体 機 能 分 子 学 特 論		2	前期
		遺 伝 子 解 析 学 特 論		2	前期
		品質保証・精度管理学特論		2	前期
		ウ イ ル ス 学 特 論		2	後期
		看 護 研 究 方 法 論		2	前期
		動 作 解 析 学 特 論		2	前期
		運動生理機能解析学特論		2	前期
		神経・筋・シナプス 特 論		2	前期
		徒手理学療法学特論		2	前期
		生活障害支援学特論		2	前期
		認知神経心理学特論		2	前期
		摂食嚥下リハビリテーション特論		2	前期
		研 究 指 導		12	
計		20	48		

1) 臨床検査領域の必修科目

2) 看護領域の必修科目

3) リハビリテーション領域の必修科目

(5) 履修単位

授業科目の区分	修 了 に 必 要 な 単 位 数		
	必 修	選 択	小 計
共 通 科 目	2 単位	6 単位以上	8 単位以上
専 門 科 目	2 単位	4 単位以上	6 単位以上
研 究 指 導	12 単位		
合 計	16 単位	14 単位以上	
総 合 計	30 単位以上		